

# 地域社会の「多文化共生」

## —横浜市神奈川区のネパール人を通して—

外国語学部 国際文化交流学科 3年

太田 貴

### はじめに

本稿は神奈川区に住んでいる外国人の生活背景を紹介することを基本的なテーマとして調査を行い、それによって得られた情報をもとに地域社会を「多文化共生」の視点で見ることを目的としている。

神奈川区は神奈川大学横浜キャンパスにとって最も身近な地域である。また、ネパール人を調査対象にした理由は、神奈川区内に登録されているネパール人の人口がここ数年で増加したことを横浜市の統計で知ったためである。さらに、神奈川大学の周辺に「ネパール系飲食店」が集中していることにも興味を持ったからである。「ネパール系飲食店」の定義は後ほど紹介する。

本稿の構成は、第一章で横浜市の外国人人口を俯瞰したあと、第二章で神奈川区のネパール人が増加した背景を考察する。第三章は全体のまとめとなっている。

## 第一章 横浜市における外国人人口の概観

### 横浜市の外国人人口

神奈川県は県庁所在地である横浜市は国際都市としても知られ多くの外国人が住んでいる。1859年の開港から今日に至るまで、横浜市に

は外国人と共に歩んできたがあると言っても過言ではないだろう。平成25年度8月現在で横浜市の外国人人口は74,577人となっており、横浜市総人口の約2%にあたる。これは日本の総人口に対する外国人が占める割合の約1.6%と比べると横浜市の外国人人口の多さが分かる。

図1は横浜市の各区に登録されている外国人の数を示したグラフである。最も外国人の人口が多い地域は中区で14,878人、次いで鶴見区の9,313人、南区は7,401人で三番目に多い地域となっている。最も少ない栄区が924人で、それ以外の区はいずれも1000人を超えているが、横浜市内でも区によって比較的に外国人人口が多い地域とそうでない地域があることが分かる。

図2

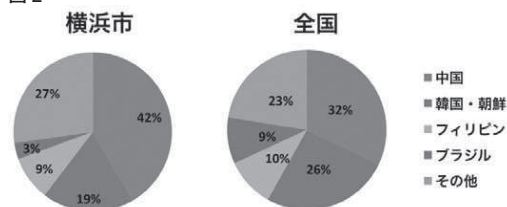
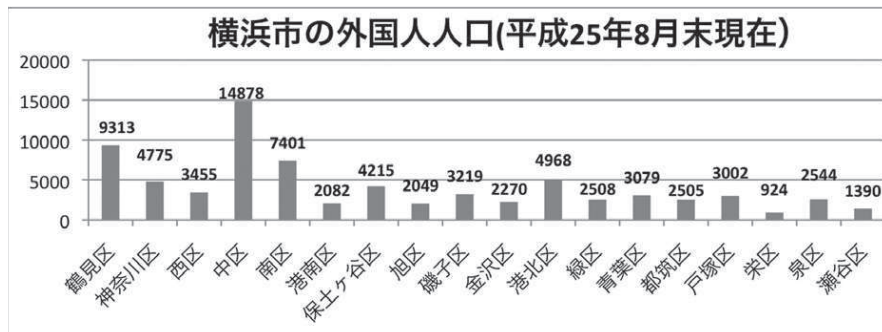


図2は全国と横浜市の外国人の国籍別の割合をもとに作成したグラフである。見て分かるように最も多い順に、中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ブラジル、そしてその他となっている。全国のグ

図1



ラフに比べて横浜市内に中国人が多いのは「横浜中華街」という巨大な中国人コミュニティが存在しているからだろう。

#### 神奈川区の外国人人口

図1で示した通り神奈川区の外国人人口は4,775人で、横浜市内では5番目に外国人が多い地域である。国籍別では、中国が2,100人と最も多く、次に韓国・朝鮮で1,062人、そして368人のフィリピンとなっている。意外なことに次に来るのがブラジル(81人)ではなくネパール(161人)であり、全体で四番目に多いということがわかった。本稿ではネパール人が増加した背景について探っていく。

## 第2章 神奈川区のネパール人と「ネパール系飲食店」

### 神奈川区のネパール人人口

ここからは「神奈川区のネパール人」に焦点を絞って、彼らがどのような背景で人口を増加させてきたかその背景を考えていきたい。神奈川区は鶴見区に次いでネパール人が多い地域であり、また神奈川大学が位置する身近な地域社会であるため調査対象として選んだ。

図3

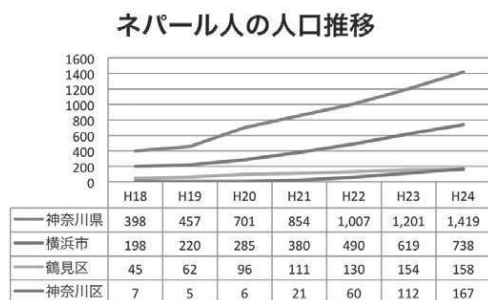


図3は神奈川県、横浜市、神奈川区におけるネパール人の人口推移をグラフにしたものである。神奈川県全体でみると平成20年を境目に増えているが、横浜市と神奈川区はどちらも平成21年から人口が顕著に伸びている。このことから平成20年から平成21年にかけて何らかの理由により多くのネパール人が流入してきたことが分かる。一方、横浜市内で最も多くのネパール人が住んで

いる鶴見区は、年々人口が大きくなっている点で神奈川区と同じであるが、平成20年と平成21年の数値に大きな差がないという点で異なる。全体的にネパール人は増加傾向にあるが、鶴見区と神奈川区のように地域によって違う背景があると推測できる。

### 神奈川区の「ネパール系飲食店」

ネパール人の人口増加について「地域によって事情が異なる」という推測を先に述べたが、この項では神奈川区にどのような特徴があるのか、フィールドワークで得られたデータをもとに説明する。

「ネパール系飲食店」を簡単に説明すると、インドカレーの店である。実際に「インド・ネパール料理」と看板に掲げている店が多い。本稿では便宜上、①ネパール人が経営している店、②ネパール人が従業員として働いている店を「ネパール系飲食店」と呼ぶことにする。

図4は神奈川区におけるネパール系飲食店の分布図である。ネパール系飲食店を探すにあたりグルメサイト「食べログ」で「神奈川区、インド・ネパール料理」と検索して、おおよその場所を割り出したあと、実際にその店がある地域を歩いて調査した。分布図は「Google Map」を使い作成した。

図4



フィールドワークを行った結果、神奈川区内には最低でも16店舗の「ネパール系飲食店」があることが分かった。全体的に駅の周辺や交通量が多い地域に店を構える傾向があり、主要な駅を中心に大きく4つのエリアに分けることができる。東海道新幹線の線路が通っている神奈川区西部の菅田町や羽沢町には駅がないためか、「ネパール系

飲食店」は存在しない。神奈川区に「ネパール系飲食店」が次々に現れるようになったのは比較的最近のことで、最も古くて反町&東神奈川エリアにあるA店が4年前の2009年から営業している。図3をみると、A店が開店した平成21年は神奈川区のネパール人の人口が前年の3.5倍になっていて、その後も増加している。ネパール人の人口と「ネパール系飲食店」の数が増加したことには、密接な関係があるといっても過言ではない。

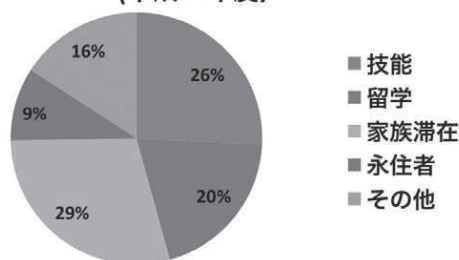
白楽エリア	5店
反町&東神奈川エリア	6店
大口&子安エリア	3店
三ツ沢エリア	2店

### ネパール人の「在留資格」とその傾向

神奈川区の「ネパール系飲食店」には日本人が働く店もあるが、2～6人のネパール人従業員だけで営業をしている店がほとんどである。こうした飲食店で働く外国人は「技能」の在留資格で日本に滞在している。図5で示した通り、日本に滞在しているネパール人の約4分の1が「技能」の在留資格である。

図5

#### 全国のネパール人の在留資格別割合 (平成24年度)

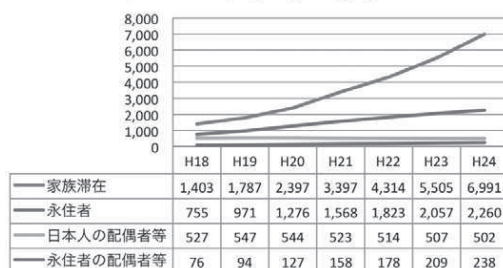


次に「家族滞在」が全体の約3割を占めている点に注目したい。「家族滞在」は在留外国人が扶養する配偶者・子に与えられる在留資格で、在日ネパール人の在留資格では最も数が大きい。「家族滞在」ほどではないにせよ、「永住者」の数も徐々に増えているが、「日本人の配偶者等」や「永住者の配偶者等」はほぼ横ばいの状態である。「家族滞在」の値が平成20年を機に、毎年約1000人ずつ増えている。これらの点からネパール人だけで構成さ

れた世帯数が多いと考えられる。

図6

#### ネパール人世帯の推移



### 神奈川区でネパール人が増加した背景の仮説

ここまでの話をまとめると、平成20年ごろから「ネパール系飲食店」で働くネパール人が神奈川区に居住しはじめ、家族を呼び寄せたことで飛躍的に人口が増加したという仮説を立てることができる。

### まとめ

#### これからの調査に向けての課題

法務省と横浜市の外国人統計や、神奈川区で実施したフィールドワークによって得られたデータは、一定の説得力があるが決定的ではない。神奈川区に住むすべてのネパール人にアンケートを実施し、移住した経緯を聞くことができれば、かなり正確なデータを得られるが、インフォーマントとのコミュニケーションやコンタクトなど問題があるため、現実的に難しい。また移住先としてなぜ神奈川区を選んだのかという疑問を解明できていないため、これを今後の課題としたい。

#### 地域社会の「多文化共生」に向けて

本稿の調査により、グローバル化の進行により地域社会の住民もこれまで以上に多国籍化していることの一例を示すことができただろう。神奈川区に多くの「ネパール系飲食店」ができたことにより、地域の住民は「食文化の多様性」を享受することができる。またネパール人側にとっても、

自分たちの文化を提供することで、エスニック・アイデンティティを尊重しつつ生計を成り立たせることができる。一方で、言語や教育、医療や行政手続きなどあらゆる面での柔軟な対応が求められるのも事実である。そのためにも、地域にどのような外国人がどのような背景で生活しているかを把握することは、「多文化共生」への第一歩である。

#### 参考資料一覧

- ・「食べログ」  
<http://tabelog.com/>, 2013/9/10 閲覧
- ・横浜市「横浜市統計ポータルサイト」  
<http://www.city.yokohama.lg.jp/ex/stat/>, 2013/9/10 閲覧
- ・法務省「在留外国人統計（旧登録外国人統計）統計表」  
[http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei\\_ichiran\\_touroku.html](http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html), 2013/9/15 閲覧
- ・入国管理局「在留資格一覧」  
<http://www.immi-moj.go.jp/tetuduki/kanri/qaq5.html>, 2013/9/20 閲覧
- ・Google「Google マップ」  
<https://maps.google.co.jp/maps?hl=ja&tab=wl>, 2013/9/25 閲覧

#### 参考文献一覧

- ・石井博編『アジア読本 ネパール』河出書房, 1997
- ・移住労働者と連帯する全国ネットワーク編『移住者が暮らしやすい社会に変えていく 30 の方法』合同出版, 2012
- ・樋口直人編『日本のエスニック・ビジネス』世界思想社, 2012
- ・平井誠「横浜市における外国人の性別・年齢構造と分布」, 神奈川大学人文学研究所編『在日外国人と日本社会のグローバル化』御茶の水書房, 2008